

23. B 2 D 特別学修課程案内

(「B2D スキーム (B2D 特別選抜)」登録学生の履修案内)

1. はじめに

東工大では、本学の強みである研究を通じた教育を最大限に活かした学修プログラムである「B2D スキーム」(B2D 特別選抜)を実施しています。

B2D スキームは、学生一人ひとりのキャリアを踏まえたテーラーメイド型のカリキュラム(学士課程ではB2D 特別学修課程、大学院課程では原則、標準学修課程)を設定します。将来を見据えた学修計画により、既存の枠を超えた、社会を牽引できる傑出したオンリーワンの博士人材の輩出を目指しています。

B2D スキームの選考(B2D 特別選抜)は、学士課程2年次相当前学期に行います。合格した学生(以下、B2D 学生と呼ぶ)は、2年次相当後学期から研究室の研究に触れ、具体的に進みたい研究分野を決めることができる「B2D 研究基礎」、3年次相当前学期以降、進みたい研究分野の方向性が固まった場合には「B2D プレ研究実践」を履修することができます。「B2D プレ研究実践」は、希望の研究室で行い、4年次相当で履修する科目「学士特定課題研究」に相当する学修が可能となります。

「B2D 研究基礎」、「B2D プレ研究実践」は、研究関連科目「B2D 共通科目」の授業科目です。科目コード等や単位数については、「表Ⅱ B2D 共通科目 一覧」を参照してください。

(注：B2D 学生以外は、上記の科目を履修することはできません。)

B2D 学生は、「B2D 共通科目」の履修により、一般の学生よりも研究の進捗が早いことから、「学士特定課題研究」履修のための研究室配属では、優先的に配置されます。

B2D スキームでは、B2D 学生同士の横のつながりや先輩・後輩との縦のつながりを作り、早期に研究開始する学生同士で切磋琢磨する場として「B2D フォーラム」を各学期に1回開催します。B2D 学生は必ず参加しなければなりません。また、研究を行う上で重要である留学等も必須としています。

B2D スキームに参加している系は表Ⅰの通りです。

興味がある場合は、所属(または所属を希望)する系のB2D スキーム担当教員(以下、B2D 担当教員と呼ぶ)へ問い合わせてください。

表 I B2D スキーム参加系および担当教員

学院・系		B2D 担当教員		連絡先
理学院	物理学系	教授	関口 仁子	b2d[at]phys.titech.ac.jp
理学院	化学系	教授	河野 正規	jim[at]chem.titech.ac.jp
工学院	システム 制御系	准教授 教授	石崎 孝幸 倉林 大輔	sce-jim[at]sc.e.titech.ac.jp
工学院	電気電子系	准教授	宮島 晋介	b2d[at]ee.e.titech.ac.jp
工学院	情報通信系	教授	山岡 克式	ict_kanjidan[at]ict.e.titech.ac.jp
物質理工 学院	材料系	准教授	石川 謙	b2d-mat[at]mac.titech.ac.jp
物質理工 学院	応用化学系	准教授	吉川 史郎	b2d-cap[at]mac.titech.ac.jp
情報理工学 院	数理・計算科 学系	准教授	鈴木 咲衣	is-b2d[at]c.titech.ac.jp
生命理工 学院	生命理工学系	教授	伊藤 武彦	sei.sien[at]jim.titech.ac.jp
環境・社会理 工学院	建築学系	教授	藤井 晴行	b2d[at]arch.titech.ac.jp
環境・社会理 工学院	土木・環境 工学系	教授	鼎 信次郎	b2d-admin[at]cv.titech.ac.jp
環境・社会理 工学院	融合理工学系	教授	西條 美紀	tse-b2d- faculty[at]tse.ens.titech.ac.jp

※ B2D 担当教員は交代する場合がありますので、最新の情報は B2D スキーム HP（URL はこの項の最後を参照）にてご確認ください。

2. B2D 特別選抜のスケジュール等について

毎年 4 月頃、学士課程 2 年次相当に対して B2D スキームの全学説明会を開催し、公募や選抜審査等の説明を行います。応募を考えている場合は、必ずこの説明会へ参加してください。大まかなスケジュールは以下のとおりです。

4 月中旬 B2D 特別選抜 学士 2 年次相当向け全学説明会

※出願のためには、上記の説明会への参加が必須です。

(4 月下旬以降 B2D スキーム 学士 1 年次相当向け全学説明会(参加は任意))

5 月中旬頃 出願期限

6 月上旬 一次選抜（書類審査）

第 2Q 開始時 一次選抜合格者への B2D 担当教員によるメンタリング開始（学修計画の作成開始）

8 月上旬 二次選抜（面接審査：プレゼンテーション等）

9月上旬 二次選抜結果通知, B2D 特別学修課程の学修計画の決定

第3Q～ B2D 特別学修課程での学修開始(研究開始)

3. B2D 特別学修課程について

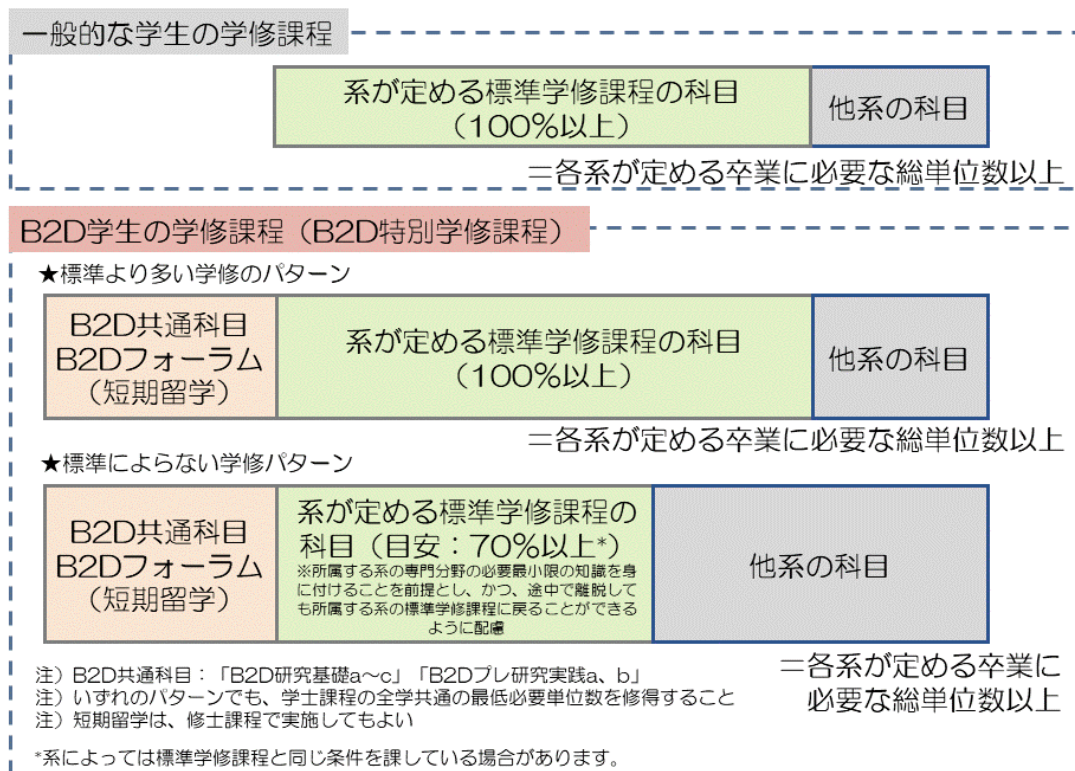
学士課程のB2D学生のために準備された、標準学修課程によらない学修カリキュラムです。B2D学生の研究テーマによっては複数の系の科目を学修する必要があることから、それらの科目も卒業要件に含めることができます。

B2D 特別学修課程に必ず含めなければならない学修は「B2D 共通科目」の修得と、各系が定める必要最低限の科目の修得があります。

B2D 学生の学修計画は、所属する系とB2D スキーム実施委員会に提出が必要です。詳細は、B2D スキーム登録時にお知らせします。

(注:「各系が定める必要最低限の科目」は、表Ⅲの「卒業資格」欄を参照。)

【B2D特別学修課程(学士課程用)】



表Ⅱ B2D 共通科目 一覧(全て研究関連科目)

系	番台	科目コード	科目名		単位
物理学系	200	PHY. Z201	○	B2D 研究基礎 a	0-1-0
物理学系	200	PHY. Z202	○	B2D 研究基礎 b	0-1-0

系	番台	科目コード	科目名		単位
物理学系	200	PHY. Z203	○	B2D 研究基礎 c	0-1-0
物理学系	300	PHY. Z301		B2D プレ研究実践 a	0-2-0
物理学系	300	PHY. Z302		B2D プレ研究実践 b	0-2-0
化学系	200	CHM. Z201	○	B2D 研究基礎 a	0-1-0
化学系	200	CHM. Z202	○	B2D 研究基礎 b	0-1-0
化学系	200	CHM. Z203	○	B2D 研究基礎 c	0-1-0
化学系	300	CHM. Z301		B2D プレ研究実践 a	0-2-0
化学系	300	CHM. Z302		B2D プレ研究実践 b	0-2-0
システム制御系	200	SCE. Z281	○	B2D 研究基礎 a	0-1-0
システム制御系	200	SCE. Z282	○	B2D 研究基礎 b	0-1-0
システム制御系	200	SCE. Z283	○	B2D 研究基礎 c	0-1-0
システム制御系	300	SCE. Z386		B2D プレ研究実践 a	0-2-0
システム制御系	300	SCE. Z387		B2D プレ研究実践 b	0-2-0
電気電子系	200	EEE. T281	○	B2D 研究基礎 a	0-1-0
電気電子系	200	EEE. T282	○	B2D 研究基礎 b	0-1-0
電気電子系	200	EEE. T283	○	B2D 研究基礎 c	0-1-0
電気電子系	300	EEE. T381		B2D プレ研究実践 a	0-2-0
電気電子系	300	EEE. T382		B2D プレ研究実践 b	0-2-0
情報通信系	200	ICT. Z291	○	B2D 研究基礎 a	0-1-0
情報通信系	200	ICT. Z292	○	B2D 研究基礎 b	0-1-0
情報通信系	200	ICT. Z293	○	B2D 研究基礎 c	0-1-0
情報通信系	300	ICT. Z377		B2D プレ研究実践 a	0-2-0
情報通信系	300	ICT. Z378		B2D プレ研究実践 b	0-2-0
材料系	200	MAT. D201	○	B2D 研究基礎 a	0-1-0
材料系	200	MAT. D202	○	B2D 研究基礎 b	0-1-0
材料系	200	MAT. D203	○	B2D 研究基礎 c	0-1-0
材料系	300	MAT. D301		B2D プレ研究実践 a	0-2-0
材料系	300	MAT. D302		B2D プレ研究実践 b	0-2-0
応用化学系	200	CAP. D201	○	B2D 研究基礎 a	0-1-0
応用化学系	200	CAP. D202	○	B2D 研究基礎 b	0-1-0
応用化学系	200	CAP. D203	○	B2D 研究基礎 c	0-1-0
応用化学系	300	CAP. D301		B2D プレ研究実践 a	0-2-0
応用化学系	300	CAP. D302		B2D プレ研究実践 b	0-2-0
数理・計算科学系	200	MCS. M201	○	B2D 研究基礎 a	0-1-0

系	番台	科目コード	科目名		単位
数理・計算科学系	200	MCS. M202	○	B2D 研究基礎 b	0-1-0
数理・計算科学系	200	MCS. M203	○	B2D 研究基礎 c	0-1-0
数理・計算科学系	300	MCS. M301		B2D プレ研究実践 a	0-2-0
数理・計算科学系	300	MCS. M302		B2D プレ研究実践 b	0-2-0
生命理工学系	200	LST. Z281	○	B2D 研究基礎 a	0-1-0
生命理工学系	200	LST. Z282	○	B2D 研究基礎 b	0-1-0
生命理工学系	200	LST. Z283	○	B2D 研究基礎 c	0-1-0
生命理工学系	300	LST. Z384		B2D プレ研究実践 a	0-2-0
生命理工学系	300	LST. Z385		B2D プレ研究実践 b	0-2-0
建築学系	200	ARC. Z201	○	B2D 研究基礎 a	0-1-0
建築学系	200	ARC. Z202	○	B2D 研究基礎 b	0-1-0
建築学系	200	ARC. Z203	○	B2D 研究基礎 c	0-1-0
建築学系	300	ARC. Z301		B2D プレ研究実践 a	0-2-0
建築学系	300	ARC. Z302		B2D プレ研究実践 b	0-2-0
土木・環境工学系	200	CVE. Y230	○	B2D 研究基礎 a	0-1-0
土木・環境工学系	200	CVE. Y231	○	B2D 研究基礎 b	0-1-0
土木・環境工学系	200	CVE. Y232	○	B2D 研究基礎 c	0-1-0
土木・環境工学系	300	CVE. Y330		B2D プレ研究実践 a	0-2-0
土木・環境工学系	300	CVE. Y331		B2D プレ研究実践 b	0-2-0
融合理工学系	200	TSE. Z201	○	B2D 研究基礎 a	0-1-0
融合理工学系	200	TSE. Z202	○	B2D 研究基礎 b	0-1-0
融合理工学系	200	TSE. Z203	○	B2D 研究基礎 c	0-1-0
融合理工学系	300	TSE. Z382		B2D プレ研究実践 a	0-2-0
融合理工学系	300	TSE. Z383		B2D プレ研究実践 b	0-2-0

○を付した科目は選択必修科目，無印は選択科目である。

4. B2D 学生の学士特定課題研究および卒業要件

B2D 特別学修課程における学士特定課題研究（以下，特課研と呼ぶ）の履修資格は，以下の条件をすべて満たすことである。

- 1) 3年以上在学していること。（注：早期卒業の場合は2年6月又は3年）
- 2) 文系教養科目，英語科目，第二外国語科目，理工系教養科目において全学共通の要件（「1. 総説」の表2）を満たすこと。
- 3) 所属する系で承認された B2D 特別学修課程において，各系で定める総修得単位数（100～110 単位）以上修得していること。

4) 表Ⅲにおいて各系で定める要件を満たすこと。

5) B2D 共通科目「B2D 研究基礎 a, b, c」(各学期: 0-1-0) または「B2D プレ研究実践 a, b」(各学期: 0-2-0) から、少なくとも 2 科目を履修していること。ただし、必ず「B2D 研究基礎 a, b」のいずれかを含むこと。

B2D 特別学修課程における特課プロ又は特課研 S の内容審査では、以下の観点審査項目として追加される。

1) 2 年次相当第 3Q から卒業までの期間に開催された、すべての B2D フォーラムに、原則、参加していること。

2) 2 週間以上の留学等(語学留学でも可)を行ったこと。(ただし、特課プロ(又は特課研 S) 終了後や修士課程において留学等を計画している場合は観点から除く。)

※ 1) については、やむを得ない理由により参加できない場合は予め申し出ること。

※ 2) については英語が母語である、あるいは母語に近い習熟者の場合は、修士課程進学後に 2 週間以上の研究留学を推奨。

学士課程における B2D 特別学修課程の卒業要件は以下のとおりである。

1) 文系教養科目、英語科目、第二外国語科目、理工系教養科目において全学共通の要件(「1. 総説」の表 2) を満たすこと。

2) 学生が所属する系で承認された B2D 特別学修課程において、各系が定める卒業に必要な総修得単位数以上を修得していること。

3) 各系で定める以下の表Ⅲの要件を満たすこと。

4) B2D 共通科目「B2D 研究基礎 a, b, c」(各学期: 0-1-0) または「B2D プレ研究実践 a, b」(各学期: 0-2-0) から、少なくとも 2 科目を履修していること。ただし、そのうち 1 科目は「B2D 研究基礎 a, b」のいずれかを含む。

注 1: 系の判断で、B2D 共通科目の単位修得をもって、「研究プロジェクト」を修得したものと読み替える場合がある。詳細は系に問い合わせること。

注 2: B2D 共通科目は、夏季休暇や春季休暇中に集中講義として実施する場合がある。

注 3: 「B2D プレ研究実践 a, b」は、「B2D 研究基礎 a, b」のいずれかを修得後に履修可。また、「B2D 研究基礎 c」は「B2D 研究基礎 a」を修得後に履修可。

表Ⅲ

B2D 特別学修課程	学士特定課題研究(学士特定課題研究 S) 履修資格 (研究プロジェクト:「研プロ」, 学士特定課題研究:「特課研」, 学士特定課題プロジェクト:「特課プロ」, 学士特定課題研究 S:「特課研 S」と記載)	卒業資格 (研究プロジェクト:「研プロ」, 学士特定課題研究:「特課研」, 学士特定課題プロジェクト:「特課プロ」, 学士特定課題研究 S:「特課研 S」と記載)
------------	---	--

物理学系	1) 物理学実験 A, 物理学実験 B および研プロを修得していること。 ※学生から系に申請があった場合、審査を経て研プロを B2D 研究基礎 a, b, c および B2D プレ研究実践 a, b で読み替える場合がある 2) 上記(1)を含め、物理学系標準科目の付表にある◎印の科目を 24 単位以上修得。 3) 上記(2)を含め、系指定の標準学修課程の専門科目群から <u>45 単位以上修得。このうち 12 単位までは他学系開講の専門科目 (200 番台, 300 番台) をもって代替可。</u>ただし物理学系の開講科目と内容の重なりが大きい他学系開講科目は認められない。 4) 総修得単位数 104 単位以上	1) 物理学系標準科目の付表にある ◎印の科目を、「特課研」及び「特課プロ」を含め全て修得していること。早期卒業の場合は「特課研」及び「特課プロ」の代わりに、必修科目として「特課研S」を履修することができる。 ※学生から系に申請があった場合、審査を経て研プロをB2D研究基礎a, b, cおよびB2Dプレ研究実践a, bで読み替える場合がある 2) 物理学系標準科目の付表にある○印の科目を4単位以上修得。 3) 系指定の標準学修課程の専門科目群から<u>63単位以上修得。このうち18単位までは他学系開講の専門科目 (200番台, 300番台) をもって代替可。</u>ただし物理学系の開講科目と内容の重なりが大きい他学系開講科目は認められない。 4) 総修得単位数124単位以上
化学系	1) 付表中の専門科目のうち、◎印の講義科目の中から 14 単位以上、◎印の実験科目の中から 12 単位以上を修得 ※在学期間が 2 年 6 月の時点で早期卒業のため特課研 (または特課研 S) を申請する場合、1) の実験科目については 8 単位以上修得していればよい 2) 研プロを修得していること ※学生から系に申請があった場合、審査を経て研プロを B2D 研究基礎 a, b, c および B2D プレ研究実践 a, b で読み替える場合がある 3) 付表の化学系の無印専門科目から<u>最低 6 単位修得し、他の専門科目とあわせて 15 単位以上修得</u> 4) 上記 1) ～ 3) を含め総修得単位数 104 単位以上	1) 付表中の専門科目のうち、◎印の科目を全て修得 (注: 講義18単位, 実験12単位) 2) 付表の化学系の無印専門科目から<u>6単位以上、他系の専門科目とあわせて20単位以上修得</u> 3) 研プロ2単位を修得していること 4) 「特課研 4 単位及び特課プロ 6 単位」又は「特課研 S8 単位」を修得していること ※学生から系に申請があった場合、審査を経て研プロを B2D 研究基礎 a, b, c および B2D プレ研究実践 a, b で読み替える場合がある 5) 上記 1) ～ 4) を含め総修得単位数 124 単位以上
システム 制御系	1) 付表中の科目のうち、◎印の科目 (研プロを含み、特課研、特課プロを除く) を全て修得していること ※学生から系に申請があった場合、審査を経て研プロを B2D 研究基礎 a, b, c および B2D プレ研究実践 a, b で読み替える場合がある 2) 付表中の科目のうち、○印の科目を 11 単位以上修得	1) 付表中の科目のうち、◎印の科目 (研プロを含み、特課研、特課プロを除く) を全て修得していること ※学生から系に申請があった場合、審査を経て研プロを B2D 研究基礎 a, b, c および B2D プレ研究実践 a, b で読み替える場合がある 2) 付表中の科目のうち、○印の科目を 11 単位以上修得

	3) 付表中の科目のうち、◎印・○印を含め 38 単位以上修得 4) 系で承認された B2D 特別学修課程において、総修得単位数 110 単位以上	3) 付表中の科目のうち、◎印・○印を含め 44 単位以上修得 4) 特課研と特課プロ、もしくは特課研 S を修得していること 5) 系で承認された B2D 特別学修課程において、総修得単位数 126 単位以上
電気電子系	1) 専門科目を 53 単位以上修得 2) 系の専門科目の付表中から 34 単位以上修得 3) 系の専門科目の付表中から◎印の科目を 27 単位以上修得(研プロ 2 単位を含む) ※B2D プレ研究実践 a, b のいずれかを研プロに読み替え可 4) 総修得単位数 108 単位以上	1) 専門科目を 65 単位以上修得 2) 系の専門科目の付表中から 46 単位以上修得 3) 系の専門科目の付表中から◎印の科目(42 単位。ただし、早期卒業希望者において、「学士特定課題研究(4 単位)および学士特定課題プロジェクト(6 単位)」の代わりに、「学士特定課題研究 S(8 単位)」を履修する場合は 40 単位)を全て修得していること。 ※B2D プレ研究実践 a, b のいずれかを研プロに読み替え可 4) 総修得単位数 124 単位以上
情報通信系	1) 研プロ 2 単位を修得していること 2) 必修の系専門科目 12 単位から 10 単位以上修得 3) A 群から 9 単位以上、B 群から 8 単位以上修得 4) 系標準学修課程専門科目群から 50 単位以上修得 5) 総修得単位数 110 単位以上	1) 研プロ 2 単位を修得していること 2) 必修の系専門科目 12 単位を修得 3) A 群から 9 単位以上、B 群から 8 単位以上修得 4) 系標準学修課程専門科目群から 64 単位以上修得 5) 特課研(4 単位)および特課プロ(6 単位)を修得している、もしくは、特課研 S(8 単位)を修得していること 6) 上記 1) - 5) を含み総修得単位数 128 単位以上
材料系	・付表中の専門科目群から◎12, 研プロ 2, 材料科学実験 (M, P, C) 6, ○6, ただし、3 年または 3.5 年で早期卒業希望する場合には、○は 2 でよい ※B2D 研究基礎 a, b, c および B2D プレ研究実践 a, b で内容に応じて研プロに読み替える場合がある ・総修得単位数 106 単位以上	・付表中の専門科目群から 44 (◎24, (研プロ 2, 特課研 4, 特課プロ 6, 材料科学実験 (M, P, C) 6 を含む), 専門科目(300 番台)から所定の科目○6 を含め 20(ただし、同一科目群内の 300 番台から所定の科目○6 を含め 18) ※早期卒業者は、「特課研 4, 特課プロ 6」を「特課研 S8」と読み替えることができる ※B2D 研究基礎 a, b, c および B2D プレ研究実践 a, b で内容に応じて研プロに読み替える場合がある ・総修得単位数 124 単位以上
応用化学系	・付表中の専門科目群から 33 (◎16 (研プロ 2 含む)) ※B2D 研究基礎 a, b, c および B2D プレ研	・付表中の専門科目群から 40 (◎26 (研プロ 2, かつ、「特課研 4+特課プロ 6」又は「特課研 S8」のいずれかを含む)) ※B2D 研究基礎 a, b, c および B2D プレ研

本ページ朱書き箇所：R6.12 月更新

	究実践 a, b で内容に応じて研プロに読み替える場合がある ・総修得単位数 106 単位以上	究実践 a, b で内容に応じて研プロに読み替える場合がある ・総修得単位数 124 単位以上
数理・計算科学系	1) 理工系教養科目の微分積分学第二, 微分積分学演習第二, 線形代数学第二, 線形代数学演習第二から 2 単位以上, 情報リテラシ第一, 情報リテラシ第二, コンピュータサイエンス第一, コンピュータサイエンス第二から 2 単位以上を修得していること 2) 系専門科目(授業科目付表参照)の選択必修科目 A 群から 5 単位以上, B 群から 5 単位以上, C 群から 8 単位以上を修得し, これらを含めて系専門科目から 43 単位以上を修得していること 3) 研プロ 2 単位を修得していること 4) 上記(1)～(3)を含め, 総修得単位数 100 単位以上 ※ B2D 研究基礎 a, b, c または B2D プレ研究実践 a, b のうち 2 単位を研プロに読み替え可	1) 左記の学士特定課題研究履修要件 1), 2) 及び 3) を満たし, 特課研 4 単位と特課プロ 6 単位を修得していること。ただし早期卒業者は, 「特課研 4 単位と特課プロ 6 単位」を「特課研 S8 単位」に読み替えることができる。 2) 上記 1) を含め, 総修得単位数 124 単位以上 ※ B2D 研究基礎 a, b, c または B2D プレ研究実践 a, b のうち 2 単位を研プロに読み替え可
生命理工学系	・付表中の専門科目群から 42 (◎14, ○8, 研プロ 2) ※早期卒業希望者は, 200 番台の◎12 とすることができる ※B2D 研究基礎 a, b, c または B2D プレ研究実践 a, b のうち 2 単位を研プロに読み替え可 ・総修得単位数 108 単位以上	・付表中の専門科目群から 48 (◎14, ○8, 研プロ 2, 特課研 4, 特課プロ 6) ※早期卒業者は, 「特課研 4, 特課プロ 6」を「特課研 S8」と読み替える。) ※B2D 研究基礎 a, b, c または B2D プレ研究実践 a, b のうち 2 単位を研プロに読み替え可 ・総修得単位数 126 単位以上
建築学系	1) 図学・図形デザイン第一, 第二および図学製図 計 5 単位 2) 付表に示す科目から◎印 6 単位以上, ○印 18 単位以上を含め計 50 単位以上 3) 研プロ 2 単位を修得していること 4) 上記 1) ～ 3) を含め総修得単位数 110 単位以上 ※B2D 研究基礎 a, b, c および B2D プレ研究実践 a, b で内容に応じて研プロに読み替える場合がある	1) 付表中の科目のうち, ◎印の科目を全て修得していること 2) 付表中の科目のうち, ○印の科目を 21 単位以上修得 3) 付表から 63 単位以上修得 4) 研プロ 2 単位, 特課研 4 単位, 特課プロ 6 単位を修得していること (卒業制作を含む) 5) 上記 1) ～ 4) を含め総修得単位数 128 単位以上 ※B2D 研究基礎 a, b, c および B2D プレ研究実践 a, b で内容に応じて研プロに読み替える場合がある ※早期卒業者は, 4) 「特課研 4 単位, 特課プロ 6 単位」を「特課研 S」と読み替えることができる。

		(注意事項) 将来、一級建築士の受験をする者は受験資格を取得するために必要な科目の履修に留意すること
土木・環境工学系	1) 系の付表中の専門科目から少なくとも以下の単位を修得していること 35 (◎ 9 (研プロ 2 含む), ○ 14) 2) 総修得単位数 110 単位以上 ※B2D 研究基礎 a, b, c および B2D プレ研究実践 a, b で内容に応じて研プロに読み替える場合がある。	1) 系の付表中の専門科目から少なくとも以下の単位を修得していること 48 (◎印の全科目 (研プロ 2, 特課研 4, 特課プロ 6 含む), ○ 21) ※早期卒業者は、4) 「特課研 4 単位, 特課プロ 6 単位」を「特課研 S」と読み替えることができる。 ※B2D 研究基礎 a, b, c および B2D プレ研究実践 a, b で内容に応じて研プロに読み替える場合がある。 2) 総修得単位数 128 単位以上
融合理工学系	1) 付表中の科目のうち、系専門必修科目 (◎) 28 単位以上を修得 2) 付表中の科目のうち研プロを修得していること 3) <u>付表中科目 35 単位を含みテラーメイド科目を合わせて 44 単位以上修得</u> 4) 総修得単位数 110 単位以上 ※学生から系に申請があった場合、審査を経て研プロを B2D 研究基礎 a, b, c および B2D プレ研究実践 a, b で読み替える場合がある。	1) 付表中の科目のうち、系専門必修科目 (◎) 30 単位を全て修得 2) 付表中の科目のうち研プロ、特課研、特課プロを修得していること ※早期卒業者は、4) 「特課研 4 単位, 特課プロ 6 単位」を「特課研 S」と読み替えることができる。 ※学生から系に申請があった場合、審査を経て研プロを B2D 研究基礎 a, b, c および B2D プレ研究実践 a, b で読み替える場合がある。 3) <u>付表中科目 40 単位を含みテラーメイド科目を合わせて 54 単位以上修得。</u> 4) 総修得単位数 128 単位以上

注：表Ⅲの特課研履修資格および卒業資格は、B2D 特別学修課程としての最低限の要件である。系の判断で、学生一人ひとりの学修の方向性等を考慮した最終的なテラーメイドの特課研履修資格および卒業資格が設定される。

注 2：学修案内「総説 表 3 各標準学修課程により定める学士特定課題研究履修及び卒業に必要な単位数の概要」で定められる単位数と、上記表Ⅲで定められた単位数において、違いがある場合は下線を引いている。

(参考：大学院入試および大学院での学修について)

大学院入試は通常の学生と同様ですので、出願手続き等忘れずに行ってください。

修士課程、博士後期課程における B2D 学生の学修課程および修了要件は、一般の学生と同じです。ただし、各課程の修了要件の一つである修士論文または博士論文の審査において、B2D 学生については以下の観点追加されます。このことは、大学院課程の学修案内にも記載されます。

[修士課程]

学士課程において留学等を行っていない場合は、修士課程在籍中に2週間以上の留学等（語学留学も可）を行ったこと。

[博士後期課程]

- 1) B2D フォーラムにおいて、1回以上発表を行ったこと。
- 2) 3ヶ月以上の研究留学を行ったこと。

5. 400 番台の先行履修について

標準学修課程の場合、学士特定課題研究（又は学士特定課題研究 S）の履修を許可されてから 400 番台の授業科目を履修することが可能になりますが、B2D 学生については、以下の条件を満たすことで、400 番台の授業科目を履修することが可能となります。

【B2D 学生における 400 番台の先行履修条件】

- ・ B2D プレ研究実践の履修を開始していること又は履修を許可されていること。
- ・ 在学期間が 2 年に達する日の属する学期末又は 2 年 6 ヶ月に達する日において、GPT が 3.00 以上であり、かつ、90 単位以上を修得していること。

手続きおよび詳細については、B2D 担当教員または B2D スキーム HP の「お問合せ先」（URL はこの項の最後を参照）までお問い合わせください。

6. 留学等の経費支援

学士課程または修士課程において2週間以上の留学等（語学留学も可）を実施する際に、学生1人につき1回に限り、留学等にかかる経費支援を行います。詳細は、B2D 担当教員または B2D スキーム HP の「お問合せ先」（URL はこの項の最後を参照）までお問い合わせください。

7. 学位記および「B2D スキーム」の修了証書

学士課程、修士課程、博士後期課程それぞれの課程において、「東京工業大学学位規程」で定められた様式の学位記（所属する学院名と系名、大学院の場合はコース名も含めて記載）が授与されます。

さらに、学士課程、修士課程、博士後期課程の間、B2D スキームにおいて学修し、博士の学位を授与された方には、既存の枠を超えた、社会を牽引できる傑出したオンリーワンの博士人材であることを証して、「B2D スキーム修了証書」が授与されます。

参考：B2D スキーム ホームページ

東京工業大学（在学生の方>在学生向け教育プログラム >B2D スキーム（B2D 特別選抜））

https://www.titech.ac.jp/enrolled/certificate_current/b2d.html